

牛群検定通信 No71

◇ 搾乳時間について ◇

搾乳間隔の基本は12時間というのは酪農家なら誰でもご存知と思います。検定成績表の右下に表示される「搾乳管理」でチェックしてみましょう。ここから搾乳作業の効率性や過搾乳、乳量のバランスなどを見ることができます。

【 搾乳管理の使い方 】

(1) 検定種別

A4：2回搾乳の場合は、夜朝と2回検定員が立会する検定方法。3回搾乳では昼夜朝の順に3回です。

AT：搾乳時刻記録タイマーという機器を用いて、搾乳の開始と終了を自動的に記録する検定です。なお、3回搾乳についても行っています。

AMS：自動搾乳（搾乳ロボット）による検定になります。この場合は、以下の搾乳時間関係の情報は表示されません。

(2) 時刻

搾乳を開始した時刻と終了した時刻を検定員が記録したものです。AT法の場合は真空ポンプを点けた時刻が開始、消した時刻が終了となります。

(3) ユニット

搾乳するミルカーの台数になります。夜搾乳と朝搾乳に使った台数がともに4台であれば、4.0台と表示されます。

(4) 1回平均

夜朝2回の搾乳に要した時間です。(2)の時刻で計算しています。

(5) 1頭平均

1頭あたりの搾乳時間となります。全国の平均値はおおよそ15～16分程度です。ミルカーの移動や前搾りなど諸々の時間を含む時間なので、一概に言えませんが、20分以上かかる長時間の場合は、次のようなことを確認してください。

- ①長時間ミルカーをつけていませんか？ →過搾乳
- ②真空圧が低くありませんか？ →定期点検
- ③ライナーリップが多く発生していませんか？ →ライナー交換
- ④作業手順に無駄がありませんか？
- ⑤1人で担当するミルカーが多くありませんか？

特に、過去の検定成績表と比べて、最近になって搾乳時間が長いというような場合は②の真空圧等の定期点検が必要な場合があります。

(6) 朝→夜（時間）

朝の搾乳時刻から夜の搾乳時刻の間隔を示しています。24時間を100%としたときの比率で示しています。搾乳間隔が12時間になっていればおおよそ50%と示されます。

(7) 朝→夜（乳量）

朝と夜の1頭あたり合計乳量を100%としたときの、夜と朝の乳量を比率で示しています。搾乳間隔が12時間になっていればおおよそ50%と示され、乳房への負担が最も少ないと言われていています。45～55%程度になるようにしましょう。